

海外司法スケッチ

フランスにおける書記官養成課程



フランスの国立書記官学校は、ディジョンにあります。ディジョンはブルゴーニュ地方の中心地、コート・ドールの県庁所在地であり、パリから南東にTGVで約1時間40分のところにあります。ディジョンマスタード、エスカルゴが有名であるほか、周辺には高級ワインで有名なロマネコンティなどのワインの産地が点在しています。

国立書記官学校には、主任書記官養成コースと書記官養成コースがあり、研修期間はどちらも18か月です。どちらのコースも学科研修と実務研修を交互に3セット行った後、配属前の研修を行います。研修の初めに、法服をまとって宣誓式を行います。日本では、同じデザインの法服が支給されますが、フランスでは、いくつかの業者が行う試着会で、研修生が素材や細かな部分のデザインで気に入ったものを自分自身で選択する仕組みになっています。

私は主任書記官養成コースを選択しました。このコースは司法行政に関する分野を中心に学びます。日本では、主任書記官は内部試験に合格した者の中から任命され、任命される前後に短期間の研修を受けるシステムですが、フランスでは、主任書記官養成コースの入所試験は外部の人も受験できます。私のクラスにも裁判所での勤務経験がない研修生がいました。研修課程を修了すると、成績優秀者から順に自分の希望の任地を選択できるシステムになっています。

参加した主任書記官養成コースの研修生は全部で107名、内92名が女性でした。フランスでは、書記官は主任書記官も含め、女性の割合が非常に高い職種です。日本でも増えてきているとはいえ、その比ではないという印象でしたし、日本ではまだ女性の主任書記官が多いとはいえない状況であるため、その点においても違いを感じました。

学科研修では、研修生に1台ずつのパソコンが貸与されます。講義・演習で紙のレジュメは配布されず、研修生はイントラネットから各自ダウンロードして取得したデータを使用したり、メモをパソコンで取ったりしていました。科目は、公務員倫理規定、情報処理といった一般的な科目を除き、予算、人事管理、庁舎管理、災害時対応などのマネジメントに関するものがほとんどでした。授業は、討議・発表の繰り返して、議論中心の授業であるとともに、部下との模擬面談や着任時の挨拶の練習などのロールプレイも多数取り入れられたものでした。

実務研修では、実際に働いている主任書記官のもとで、主任書記官の職務の見学や体験をしました。また、法廷では書記官席の横に座って、調書作成やパソコン操作を見学し、書記官室では手続きの説明を受けたり、記録の閲読、判決点検補助を行うなど、書記官としての実務研修も受けることができました。

印象に残ったものの1つに、PACS（民事連帯契約）があります。これは結婚とほぼ変わらない権利及び義務を生じさせる手続きで、契約の締結・解消も簡単のため、フランスではよく利用されていて、手続きは書記官が担当します。私が見学した期日には、本人と一緒に両親が同席し、最後には記念撮影をする場面もありました。手続きに関わる誰もが幸せな、裁判所では珍しい手続きで、私も記念撮影に参加したり、握手を求められたりと幸せムードいっぱいの中に立ち会えて楽しい経験が出来ました。

どの職場でもカフェタイムがあり、コーヒーを飲みながら職員同士様々な話をしていました。休暇の予定、家族の話題から、社会問題、裁判所の抱える問題まで活発に議論していて、フランス人の議論好きが感じられる場面でした。短い時間でも職員同士のよいコミュニケーションの場となっていると感じました。

(記載内容は研修時(平成25年7月から1年間)のもの)

Dijon



ディジョン裁判所・法廷



宣誓式



国立書記官学校長ステファン・アルドゥアン氏(当時)と



ディジョン裁判所

*Prestation
de serment*

横浜地方裁判所総務課課長補佐 横田朋子 (よこた ともこ)